

Column

あのクリスティーズでアジア人初のワインスペシャリストとして活躍した、世界に誇る日本女性の渡辺順子さんがお届けするワインコラムです。

渡辺順子のワインに乾杯!

第2回

前号でも紹介した、テキサス州に住むクリスティーズ上顧客の彼は、おそらく10万本ほどのワインを所有している。

彼はテキサスの広大な土地に、家1軒分の広さはあるだろうと思われるセラーを5年前に建てた。セラーは広さだけでなく、設計も家のような趣で、セラーの中でワインに囲まれながらディナーを楽しめるようにデザインされた。



「ワイン好きにはたまらないよ。ワインに囲まれてディナーなんて最高だろ。1961年のラトゥールのマグナムがちょうど届いたからね、テーブル脇のこのラックへ飾ろうと思っているんだ。Whoops (おっと)、これはサザビーズで落札したものだ……」

私はメールで送られてきた写真を見ながら、電話口の彼の様子を想像して、微笑んだ。サザビーズで落札した罪悪感からか、次回のディナーはクリスティーズのスペシャリスト全員を招待してくれると約束してくれた。日本人以上に律儀な方だ。

送られてきたセラーの写真は、まるでワインショップのように美しくデコレーションされ、セラーの中央には8人がけのダイニングテーブルが置かれていた。空調をワインの保存に最適な温度である13度と低めに設定しているため、女性ゲスト用にカシミア100%の毛布を用意し、足下を温めるヒーターも揃え、来週にはワイン雑誌の撮影に応じると話していた。

私は「ご自慢のセラーでの食事を心待ちにしています」と伝えた。しかし、どうも彼の一番の自慢はきれいに整頓されたセラーでもなく、所有しているワインの本数でもなかったようだ。

彼は1年の歳月をかけようやく出来上がったセラーについて、満足げに話してくれた。



「セラーの完成まで長かったよ。でも自慢の音響設備はハリウッド映画を手がける専門家に依頼したんだ。絶対妥協はしたくなくてね」

なるほど、彼がセラーの中で一番こだわったのは、音響設備

だったというわけだ。素敵な音楽を聴きながらのディナーはまた格別である。バング&オルフセン社のスピーカーを6カ所に設置し、音がまんべんなく響き渡るように設計され、選曲は全てモーツァルトだと教えてくれた。

「モーツァルトがワインの熟成に一番最適だって知っていたかい?」

「……………」

「モーツァルトを聞かせると、まろやかなワインに熟成していくそうなんだ」

音響設備をここまで整えたのは、ディナーに招く客人のためではなく、なんとワインに聞かせるためだった。

「ワインも生き物だからね。Junkoもワインは最適な環境で保存してくれと言っていたよね?」



確かに、私は保存方法次第でワインの味が変わると言った。温度と湿度の変化がワインにとって大敵だからだ。テキサス州は地震の心配はないが、竜巻や盗難に備えて保険は最大限にかけ、常日頃からワインの保存には十分注意を払って欲しいと言っていたが……。

“Wine geek” (ワインおたく)と呼ばれる私でも、さすがにこれは少し面食らった。(続く)



渡辺順子(わたなべじゅんこ)

1989年、ニューヨーク移住。ニューヨーク大学に通う傍ら、日系企業に勤務しファッション関連の会社を設立。「シャトー・ペトルス」を飲んでワインに魅せられ、ワイン留学のため渡仏。NYに戻り、2001年より世界最大オークションハウス、ニューヨーク・クリスティーズでアジア人初のワインスペシャリストとして活躍。2009年に退社し、ワイン・コンサルタントとして株式会社FIFTHに所属。韓国、NY、日本でワインのセミナー、イベントを開催。欧米のコレクターやワイン商と取引し、アジア諸国に向けて事業展開する。アメリカソムリエ協会 ソムリエ認定、パトリコルドンブルー ワインプログラムのサティファイケイト、ボルドープロフェッショナルワイン協会 ディプロマ、WSET アドバンス サティファイケイト
<http://www.winewiki.jp> <http://wine.choippin.com>

セブンヒルズ 6月号